

事業所名

グループホームてまり

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成21年 3月31日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
B:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいつくりアドバイザー
C:現職 介護保険施設勤務
資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	・「てまり」の理念、「生きるよろこび」の主旨に沿って、行動・目標が定められている。 * 個々の持てる能力を認め、今ある能力を生かしながら、生きがいのある暮らしの提供を行う。 * 安心安全な暮らしを援助し互いに尊重しあい、束縛されず孤独に陥らない介護を心がける。 * よく体を動かし、楽しく、個々のリズムで生活ができ、家族とのコミュニケーションを図れるように支援する。 * 入居者同士なじみの仲間を作り、地域の人々とも親しみを持った交流ができるように支援する。 ・入居者主体のケアを心がけており、職員の持ち味を活かせるような職場配置や各ユニットの職員構成を行い、ユニット内の模様替えも行う等、その人にとって最善の環境は何かを常に見直している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	・入居者の特徴に合わせた環境作りや職員の配置等、入居者が居心地良く過ごすための環境整備に取り組んでいる。今後の取り組みとして、和のコーナーを洋室(ソファ)に変更することも検討している。 ・ホーム内だけで過ごさず、買い物・散歩・イベント等、入居者の希望に合わせた外出支援を行い、気分転換や生活の活性化を図り、入居者が生活に張りや潤いを感じ、生き生きと暮らせるように取り組んでいる。 ・入居者が不安無く、安心して過ごせるよう、職員の異動を極力控え、経験豊かな馴染みの職員による手厚い介護を継続して提供できるように努めている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
・住宅地の中の高台にホームはあり、ベランダからは玉島地区の町並み等が遠くまで見渡せる。近隣には、医療機関や学校、スーパー等の商業施設もあり、日常的な散歩や買い物等の外出支援もしやすい環境がある。
・ホームと併設して、小規模多機能型居宅介護事業所や高齢者向け有料賃貸住宅があり、互いの介護力を活かした協力体制や交流が図れる。すぐ近くには法人の医療機関もあり、日常的に医療と介護の連携が図れ、ターミナルまでのケアも行えることは、入居者・家族及び職員にとっても心強い。
・ホームがある建物は、以前は看護学校の寮として使用していたものをシルバーハウスとして利用し、その後、地域の要望に応える形で段階的に移行し、現在、3ユニットのグループホームとして地域に不可欠な存在となっている。3ユニット間の連携を図り、経験豊かな職員の協力のもと、入居者一人ひとりと向き合いながら、より良いケアサービスの提供に向けて日々取り組んでいる。
・地域との連携を大切に考えており、地域の方との交流の機会も少しずつ増えている。近隣の方へは、非常災害時の協力をお願いしたり、町内の敬老会等の行事に参加したり、法人主催のお祭りやホームでのイベント等へは多くの方が参加している。近隣の方が世話をしている畑の作物の収穫時期には、ホームへも声をかけてくれる等、地域との親交は深まっている。
・法人の方針として常勤体制を取っており、職員の定着率は高く、馴染みの職員による手厚い介護を入居者に提供している。また、職員の知識習得に対する意識が高く、資格習得に向けて職員が互いに切磋琢磨しながら介護知識や技術の向上に努めている。
・「孤独にさせない介護」を心がけており、その人らしい暮らしを支えつつ、入居者の今を大切に、日々、生活に楽しみや生き甲斐を持って暮らせるように取り組んでいる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

・老年の経験を活かした介護を提供し、入居者が安全に、安心して暮らせるように住環境の整備や職員の配置等工夫している。今後は、全職員参加による会議やユニット会議の場を設け、職員の対応や意思統一を図り、より入居者の気持ちに添った介護を提供していかれることを希望する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		○
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	・入居するにあたって、詳細にアセスメントを行い、入居者のこれまでの生活や好きな事等を把握し、その人のできることを見極め、気持ち良く自発的にしてもらえるように働きかけている。また、編み物・洗濯物たたみ・食器洗い等、家庭生活の延長としての役割作りを行っている。 ・個人に関する記録類は、他の入居者や訪問者の目につくことがないよう、鍵のかかるロッカーで保管している。また、入居者のプライベートな場所へ入る時には、事前に了解を得るように心がけている。 ・面会記録はカード式になっており、記入後は個別にファイルに綴じて管理している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	・ユニットごとに、入居者の住みやすさを考えた住環境を整備し、入居者のニーズに応じて柔軟に対応している。 ・ヒヤリハットや事故報告書を作成し、課題について職員間で検討して対策を考え、再発防止に向けて取り組んでいる。また、職員は、常にホール全体の様子に注意し、入居者の安全に配慮している。 ・職員の資格取得を積極的に応援しており、職員の知識習得に対する意識も高い。また、先輩から後輩へと介護技術を伝達し、質の高いケアサービスの提供に努めている。 ・研修に参加したり、休日希望にも柔軟に対応できるよう、職員が働きやすい職場環境作りを行っている。職員の休憩室も確保しており、職員の疲労やストレス緩和にも努めている。		